

活字文化をひらく—文化通信社

2023年(令和5年)

7月25日

火曜日

加速する
出版流通システム

株式会社筑摩書房

The Bunka News

株式会社筑摩書房

創業:1940年6月18日

従業員:79名

資本金:7350万円

代表者:喜入冬子

所在地:〒111-8755 東京都大東区蔵前2-5-3

電話:03-5687-2693(総務部)

左から坂本取締役、増田専務、
システムを担当する海老原勇氏、
総務部で

株式会社筑摩書房はこのほど、株式会社光
和コンピューターと共同で書籍情報や在庫情
報など社内が発生したデータを活用する情報
プラットフォーム「INPRO」を開発。販売情報
やバブ情報などのデータも収集し、ロングセ
ラーの版を重ねながら事業を継続するためのE
RP環境を構築している。

同社は1940年に創業し、かつては個人全集など
重厚な出版物で知られたが、1985年にちくま文庫、
1992年にちくま学芸文庫、1994年にちくま新書を創
刊し、現在は年間300点強の新刊のうち8割程度を
ペーパーバックが占める。

文庫は創刊当時から定価が1000円を超えるような
古典的定番タイトルも多数含まれる学芸文庫をはじ
め、ちくま文庫も『宮沢賢治全集』『シェイクスピア全
集』など長大な作品をラインナップしており、ロングセ
ラーになる作品を中心に構成する。

販売面でも、紙スリップ収集の時代から、書店の販
売データを集めて単品ごとの売れ行きを把握し、自
社倉庫での在庫管理と小ロットな重版を重ねる手法
を構築。部数が限られる作品でも、ある程度の価格
を設定し、稼働点数5000点余という多くの既刊在庫
を長期にわたって販売していく出版スタイルを確立し
てきた。

「80年代後半から90年代に、重厚長大から一般向
けに大きくソフトチェンジしたことにより、当社の規模
でも一定の成功を収めることができました。2022年度は巣籠の反動もあり厳しい環境でしたが、
新書で『ウクライナ戦争』(小泉悠)、文庫で『しかもフ
タが無い』(ヨシタケシンスケ)や、文庫化した『82年
生まれ、キム・ジョン』(チョ・ナムジュ)といった商品
がけん引して売上を支えることができています」と増
田健史専務取締役は話す。

■情報資産いかすERP構築目指す

基幹システムは汎用機が一般的だった90年代から、
システム会社とWindowsサーバーを使ったシステムを
スクラッチで開発し、販売・物流などの業務を支えてき
た。しかし、商品マスタや物流システムがかつての「出
版VAN」の仕様に準拠していたことや、データ加工や
帳票作成が独自にできる環境であったことから業務が
属人化する傾向もあり、システムのリプレースを検討。

2018年に大宮にあった自社倉庫をやめて、株式会社
昭和図書に物流業務を委託したことで、独自の物流シ
ステムは不要になったことや、販売管理など従来の業
務システムは継続して使うことができるため、ERPシス
テムの導入ではなく「業務システムで発生するデータを
資産として有効にいかすERP環境を構築することを目
標にしました」と坂本誠取締役経理部長・システム管理
者は話す。

それまで情報交換程度だが20年以上のつき合いで
信頼感があった光和コンピューターに相談。まず課題
があった印税システムを導入して信頼を深め、ついで
光和コンピューターERPシステムの知見を得てイントラ
システムである「INPRO」を開発した。

「INPRO」では書誌マスタの管理から開始し、日本出
版インフラセンター(JPO)の出版情報登録センター
(JPRO)への登録も、光和コンピューターのJPRO支援
サービス「K-PRO」と連携して実装している。

JPROに直接つながらないのは、「当社のみでは業界
の急激な変化に即座に対応するのが困難。光和さん
には同じような事情を抱える出版社のハブとなり、課題
解決へ導いてくれることを期待したい」(坂本取締役)と
の考えからだ。

「INPRO」は知的創造を意味する「intellectual
production」の略。今後は書誌情報にこどもらない様
々な情報のプラットフォームに発展させ、情報を統合(
integration)し、さらには、革新・創造(innovation)につ
なげ、アイデアや発想がうまれることを期待している。



『ウクライナ戦争』



『しかもフタが無い』



『82年生まれ、キム・ジョン』